

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和6年度	学校コード	F111310102003	設置等組織名	技能工芸学部
大学名	ものづくり大学	設置区分	私立	事業計画名	ものづくり大学 技能工芸学部の課程制移行と「デジタル・デザイン課程」設置計画
学校種	大学	都道府県	埼玉		

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1	1-① 令和6年4月 設置認可申請準備室および課程制移行準備室設置 1-② 令和6年4月 設置認可申請の調査項目（学生確保見直し）と調査方法検討（7月コンサルタント会社契約） 1-③ 令和6年5月 課程制移行と新課程設置のための教員採用活動開始 1-④ 令和6年7月 課程制移行と新課程編成（特に新課程としてのデジタル・デザイン課程）についての主に埼玉年内人材需要の調査開始 1-⑤ 令和6年7月 課程制移行と教育プログラム編成に関する埼玉県、一般社団法人埼玉県経営者協会、一般社団法人埼玉中小企業家同友会及び一般社団法人群馬中小企業家同友会、長期インターンシップ受け入れ先企業、本学の理事の所属企業等との協議開始、同時に学内の課程制移行準備室においてカリキュラム検討開始 1-⑥ 令和6年8月 課程制移行と新課程設置のための入学者選抜方法の検討開始	1-① 令和6年4月「教育組織改革準備室」設置 1-② 令和6年5月 課程制カリキュラム検討開始（令和7年3月28日） 1-③ 令和6年5月 コンサルタント会社数社へヒアリング開始（令和7年3月28日）（令和6年8月に設置届出支援について契約） 1-④ 令和6年9月 課程制導入の見送りと学科設置の方向性の決定（令和7年3月28日） 1-⑤ 令和6年11月 教員公募検討開始（令和7年3月28日） 1-⑥ 令和7年1月 理事・評議員の所属企業等とカリキュラム編成に関する協議開始（令和7年3月28日） 1-⑦ 令和7年2月 学生募集WG及び教学WGの設置（令和7年3月28日）	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2 前倒し	2-① 令和6年7月 ものづくり道場としての、学生の自主的なモノづくり構想討論、デジタル活用設計デザイン、高機能デジタル加工機による製作まで行える「学生工房（ものづくりベース）」のための教室改装に着手（本学自己負担）	2-① 令和6年12月 ものづくり道場としての、学生の自主的なモノづくり構想討論、デジタル活用設計デザイン、高機能デジタル加工機による製作まで行える「学生工房（ものづくりベース）」のための教室整備、機器及び什器類の導入（本学自己負担）	R6年度自己評価	【4】計画を上回って実施している。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請又は届出	令和7年3月 課程制移行の届け出と技能工芸学部デジタル・デザイン課程設置および定員増の設置認可申請予定			
フェーズ1 後倒し	1-⑦ 令和7年4月 課程制移行と新課程設置の広報開始 1-⑧ 令和7年5月 連携協定締結校への課程制移行と入学者選抜方法等説明		○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2	2-② 新課程で使用する教室整備 2-③ 令和7年5月 学生工房（ものづくりベース）への機器および什器類導入、利用開始		○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
開設又は定員増	令和8年4月 課程制移行と新課程開設（入学定員330人、工学関係）			
フェーズ2 後倒し			○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ3	3-① 埼玉県、行田市の行政、県内の経営者・商工団体、労働団体等産業界23団体が加盟し、連携・協力により本学を支援してもらっている「ものづくり大学埼玉県地域連絡協議会」、および一般社団法人埼玉中小企業家同友会、一般社団法人群馬中小企業家同友会等との教育プログラムに関する連携協議継続 3-② 共済学園前橋国際大学、多摩大学との単位互換連携協定にもとづく授業相互利用開始 3-③ ものづくりベースの運用 3-④ 新課程の広報活動		○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止				

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	ものづくり大学
-------------	-------	-----	---------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table border="1"> <tr> <td>確認を受けている</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> <tr> <td>確認の対象に該当しない</td> <td><input type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	確認を受けている	<input checked="" type="checkbox"/> チェック	確認の対象に該当しない	<input type="checkbox"/> チェック	
確認を受けている	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
確認の対象に該当しない	<input type="checkbox"/> チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	ものづくり大学
-------------	-------	-----	---------

⑥	特定成長分野に係る学部等の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。		
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。		
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。		
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。		
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）		
	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	<input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。		充足率80%を満たすことが困難と考えられる状況である。
	計画通りに進んでいる	<input type="checkbox"/> チェック	
⑪	フェーズ3の助成期間終了時まで、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。		
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。		
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑬	選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。		
	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	<input checked="" type="checkbox"/> チェック	

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	ものづくり大学
-------------	-------	-----	---------

⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
--------------------	--



フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	ものづくり大学
-------------	-------	-----	---------

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- チェック a. 企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- チェック b. 関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- チェック c. 関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>a. 一般社団法人BIM教育普及機構との連携協定締結に基づき、講師派遣とともにBIM教育の新科目を2024年度第3Qから開始予定である。</p> <p>a. 埼玉県、行田市の行政、県内の経営者・商工団体、労働団体等産業界23団体が加盟し、連携・協力により本学を支援してもらっている「ものづくり大学埼玉県地域連絡協議会」において、埼玉県内のものづくり企業等との協議・意見交換によって教育プログラムの編成やブラッシュアップを定期的に行う体制を整える。</p> <p>a. 本学の教育の特色である2年生必修科目の長期インターンシップ（40日間）は、受け入れ企業（2023年度384社）との連携のもとに開学以来20年にわたって継続してきた典型的なPBL教育である。今後もこの特色ある教育を継続する。</p> <p>a. 一般社団法人埼玉中小企業家同友会および一般社団法人群馬中小企業家同友会と2024年3月に連携協定を締結し、埼玉県および群馬県の中小企業が抱える課題解決の産学連携体制を整備し、とくに事業後継者不足の課題に対してマネジメントや世界情勢に基づく将来予測など中小企業単独では実現困難な教育カリキュラム（社会人教育を含む）を検討する。</p> <p>a. 本大学法人の歴代会長・理事が所属する企業（トヨタ自動車、日立製作所、清水建設）等あるいは埼玉県、一般社団法人埼玉県経営者協会会員企業等からの基幹教員の派遣による自治体や企業と連携したPBL科目の整備・実施を計画する。</p> <p>b. デジタル・グリーン学部の新設を計画中の共愛学園前橋国際大学、および多摩大学とも単位互換を含む大学間連携協定を今後締結予定であり、既締結校の平成国際大学等と地域課題解決科目、マネジメント科目（本学提供）、世界情勢分析科目（本学提供）、世界情勢分析科目など、特色ある科目群の相互提供を進める。</p> <p>c. タイ王国の泰日工業大学とは新型コロナ感染拡大以前の2019年までは、年間5～6名が2～6か月の交換留学に相互に訪問していた。この交換留学の2025年度の再開について泰日工業大学と調整済である。</p>	<p>a. 一般社団法人BIM教育普及機構との連携協定締結に基づき、講師派遣とともにBIM教育の新科目を2024年度第3Qから開始。</p> <p>a. 埼玉県、行田市の行政、県内の経営者・商工団体、労働団体等産業界23団体が加盟し、連携・協力により本学を支援してもらっている「ものづくり大学埼玉県地域連絡協議会」を実施し、教育プログラムの編成などについて埼玉県内のものづくり企業等との協議・意見交換を行った。</p> <p>a. 本学の教育の特色である2年生必修科目の長期インターンシップ（40日間）は、受け入れ企業（2023年度384社）との連携のもとに開学以来20年にわたって継続してきた典型的なPBL教育であり、継続して実施。</p> <p>a. 一般社団法人埼玉中小企業家同友会および一般社団法人群馬中小企業家同友会と2024年3月に連携協定を締結し、埼玉県および群馬県の中小企業が抱える課題解決の産学連携体制を整備し、とくに事業後継者不足の課題に対してマネジメントや世界情勢に基づく将来予測など中小企業単独では実現困難な教育カリキュラム（社会人教育を含む）を検討する。</p> <p>a. 本大学法人の歴代会長・理事が所属する企業（トヨタ自動車、日立製作所、清水建設）等あるいは埼玉県、一般社団法人埼玉県経営者協会会員企業等からの基幹教員の派遣による自治体や企業と連携したPBL科目の整備・実施を計画予定。</p> <p>b. デジタル・グリーン学部の新設を計画中の共愛学園前橋国際大学、および多摩大学とも単位互換を含む大学間連携協定を締結。既締結校の平成国際大学等と地域課題解決科目、マネジメント科目（本学提供）、世界情勢分析科目など、特色ある科目群の相互提供を検討し、2025年度から開始。</p> <p>c. タイ王国の泰日工業大学との交換留学を2025年度4月に再開のため、現地での打ち合わせを実施。</p>	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- チェック a. 入学者選抜における科目の見直し
- チェック b. 女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- チェック c. 地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- チェック d. 社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
- チェック e. 留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>a. フェーズ1において、デジタル技術を活用したものづくりへの意欲や熱意を確認するとともにデジタルやデザインの素養を評価すべく、実技あるいは面接を重視した試験などを検討する。</p> <p>b. 従前より実施している女子スカラシップ入試（「女子高校生のための実習体験教室」の参加者に加点）の回数増をフェーズ1において検討する。</p> <p>c. 2022年度に埼玉県教育委員会との連携協定締結をはじめ、県内の高校等10校（女子高校や工業高校、総合技術高校を含む）との連携協定を締結して（他に既締結校10校）、県教育委員会が推進する「学・SAITAMA」プロジェクトへの協力や、高校教員向けの課題探求やマネジメント、生成系AIに関する講義（2023年度8回）、および生徒に対する出張授業（2023年度13回）など、実質的な連携を深めてきた。今後もこれらの連携を推進して、高校生やさらに小中学生へも「ものづくり」や「マネジメント」、さらに職業観形成への協力を進めつつ、本学の教育についての理解を深める機会を増やす予定である。</p>	<p>a. フェーズ1において、デジタル技術を活用したものづくりへの意欲や熱意を確認するとともにデジタルやデザインの素養を評価すべく、実技あるいは面接を重視した試験などを検討。</p> <p>b. 女子スカラシップ入試（「女子高校生のための実習体験教室」の参加者に加点）の回数増を今後検討する。</p> <p>c. 県内の高校等との連携協定を締結して、県教育委員会が推進する「学・SAITAMA」プロジェクトへの協力や、高校教員向けの課題探求やマネジメント、生成系AIに関する講義、および生徒に対する出張授業などを実施。高校生や小中学生へも「ものづくり」や「マネジメント」、さらに職業観形成への協力を進め、本学の教育についての理解を深める機会を設けた。</p>	

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	ものづくり大学
-------------	-------	-----	---------

指摘事項等に対する対応状況を記載してください。

区分	指摘事項等	対応状況

大学名	ものづくり大学
-----	---------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	
大区分	小区分	項目	単位																				
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	300	300																		
		入学者数	人	212	236																		
	その他の学期	入学定員	人	0	0																		
		入学者数	人	0	0																		
	入学者合計	入学定員(A)	人	300	300																		
		入学者数(B)	人	212	236																		
		入学定員充足率 (B/A)	倍	0.71	0.79																		
	収容定員等	収容定員(C)	人	1200	1200																		
		編入学定員	人	0	0																		
		在籍者数(D)	人	993	913																		
		編入学者数	人	0	0																		
		収容定員充足率 (D/C)	倍	0.83	0.76																		

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度
改組状況								選定													
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		84,884	95,005	105,179	107,476	116,330	105,808													

項目	単位		
申請時点の外部資金獲得額平均 (過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均) (E)	千円		102,553
本事業による助成金の額(F)	千円		104,000
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円		105,153

特記事項